

イベント紹介

奥多摩セラピーウォーク

- 日時** 2021年4月29日(祝)
- 受付時間** 9:00~11:00(荒天の場合中止あり)
- 受付場所** JR奥多摩駅前
- コース** JR奥多摩駅~奥多摩むかしみち~奥多摩湖(10km 4時間)
- 内容** 奥多摩むかしみちは、都内で初めて森林セラピー基地として認定された奥多摩町にある5つのセラピーロードのうちの1つで、今も随所に昔そのままの姿が残されています。奥多摩駅をスタートし、昔をしのびながら、ゴールである奥多摩湖をめざして新緑あふれる奥多摩の自然を満喫できるコースです。参加者にはコース途中で奥多摩名人・達人ガイドたちによる名所案内があります。奥多摩の新緑をお楽しみください。
- 参加費** 500円(受付時に支払い、保険料含む)
- 主催** 奥多摩セラピーウォーク実行委員会
- 問合せ** 奥多摩セラピーウォーク実行委員会事務局(奥多摩町役場観光産業課内)
TEL 0428-83-2295 FAX 0428-83-2344
ホームページ <http://www.town.okutama.tokyo.jp>



©奥多摩町観光産業課

※新型コロナウイルス感染症の影響により、内容変更、中止となる可能性があります。
最新の状況は、上記ホームページを確認いただくか、事務局へお問い合わせください。

理事会を開催しました

2021年2月19日(金)に、2020年度第5回理事会を東京自治会館で開催しました。今回の理事会で決議された主な内容を紹介します。

1. 2021年度事業計画及び収支予算

本紙の2ページから3ページにかけて紹介しました自治調査会の主な事業の計画と、その実現に必要な収支予算が承認・決定されました。

2. 公益財団法人 東京都都市づくり公社との連携

調査研究に関して連携・協力していくことを提案し、原案のとおり承認・決定されました。

なお、4月1日現在の理事・監事・評議員は下記のとおりです。

【役員】

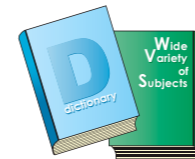
役職	氏名	所属
理事長	清水庄平	立川市長
副理事長	杉浦裕之	瑞穂町長
常務理事	小暮実	東京都市長会事務局長
理事	浜中啓一	青梅市長
理事	小林正則	小平市長
理事	大坪冬彦	日野市長
理事	並木心	羽村市長
理事	前田福夫	利島村長
監事	阿部裕行	多摩市長
監事	坂本義次	檜原村長

【評議員】

役職	氏名	所属
評議員	白井伸介	昭島市長
評議員	長友貴樹	調布市長
評議員	石阪丈一	町田市長
評議員	西岡真一郎	小金井市長
評議員	渡部尚	東村山市長
評議員	井澤邦夫	国分寺市長
評議員	永見理夫	国立市長
評議員	加藤育男	福生市長
評議員	並木克巳	東久留米市長
評議員	青沼邦和	新島村長
評議員	前田弘	神津島村長
評議員	山下奉也	八丈町長



多摩交流センターだより



特定非営利活動法人

東京雑学大学

※受講の際は、必ずマスク着用のこと!

2021年5月講義案内

(受講料: 会員は無料・会員外は1回につき500円)

日時	講義テーマ	教授	教場
5月6日(木) 14:00から	自然への招待 —生態学の視点から—	三島 次郎 氏 (桜美林大学名誉教授・元筑波大学教授)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F)
5月13日(木) 14:00から	防災福祉コミュニティの必要性	川村 匡由 氏 (武蔵野大学名誉教授)	コール田無 (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)
5月20日(木) 14:00から	感染症と近代文学	大和田 茂 氏 (法政大学講師)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F)
5月27日(木) 14:00から	モリカケサクラと 国連の古文書管理を比較する	小川 千代子 氏 (国際資料研究所・元国立古文書館・元藤女子大学教授)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井商工会館3F)

☆申込みは必要ありません。直接会場にお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原) 東京雑学大学ホームページ <http://t-zd.life.coccan.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、5月講義を中止させていただく場合があります。
詳しくは東京雑学大学までお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

「多摩交流センターだより」の問合せ先

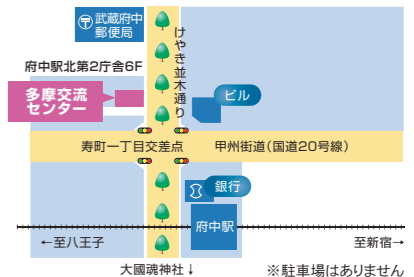
(公財) 東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <https://www.tama-100.or.jp>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



- 4月となりました。皆さんの周りには、新入学、新入社員や人事異動などで新生活をスタートさせた方も多と思います。当調査会も異動で職員が変わり新しい体制のもと事業に取り組んでまいります。
- 4月といえば花見、花見といえば桜と答える人が多いのではないのでしょうか。毎年4月上旬にかけ、桜が名所の公園などは大勢の花見客で賑わいますが、昨年同様コロナ禍の今年も、花見などの行事を控えるよう要請が出されており、満開の桜を気兼ねなく楽しめないのは非常に残念でなりません。
- 花見の起源は古く、奈良時代に貴族が梅を見て楽しんだのが始まりといわれ、梅から桜に変わったのは平安時代。鎌倉・室町時代に武士階級に花見の風習が広まった後、豊臣秀吉が催した大規模な花見が庶民にも伝わり、江戸時代に一般的な行事として根付いたようです。梅から桜へと、花見の歴史が千数百年を超えて受け継がれていることには驚かされます。
- 日本の桜の約8割はソメイヨシノといわれていますが、地球温暖化の影響で年々開花が早くなっています。気象庁の統計では4月1日までに開花するところは、1960年代では本州の太平洋沿岸と四国、九州だったのが、2000年代では関東、東海、近畿、中国地方まで北上しています。地球温暖化がさらに進行すると近い将来、満開にならなったり、咲かない地域が出てくる危険な専門家もいます。桜は、夏に花芽ができて、冬の始めに眠りに入って、真冬の寒さにさらされることで目を覚まします。これを「休

- 眠打破」といいますが、花芽は目覚めた後、暖かさによって成長し、春に開花します。温暖化で一定期間の寒さにさらされないと目覚めがおそく開花が遅れたり、目覚めた後に暖かい日が続くと開花が早まります。実際、歴史的暖冬だった2007年は、八丈島の桜は開花が遅れ満開にならなかったといえます。
- 近年、地球温暖化による気候変動がもたらす影響は世界各地で深刻さを増しています。日本各地においても記録的な暑さや台風、豪雨災害など気候変動による被害が頻発し、異常気象により、季節外れの草花が咲くなど日本の四季にも大きな影響を及ぼしています。「気候危機」ともいわれるこうした「気候変動」を抑えるため、世界の平均気温上昇をよりリスクの低い1.5℃に抑えるよう、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ(脱炭素)を目指した取組が日本を含め世界的に加速しています。当調査会でも、今年度から「気候変動に関する調査研究」事業を展開し、各自治体が実施する「脱炭素」を中心とする「緩和策」と「適応計画策定」に向けた「適応策」を支援することで、地球温暖化の抑制に寄与していきたいと考えています。
- 桜は春の訪れを告げる代表的なものです。日本人は古くから四季の移ろいや自然美を感慨深く感じ大切にしていますが、将来にわたりこれらの豊かな日本を子孫に引き継いでいくことが私たちの使命だと思います。そのためには、「脱炭素」に向けた取組などを率先して実践していきたいと考えます。(K、K)